

会 議 録

第 9 回定例会

開会 平成 3 0 年 8 月 7 日

教育委員会会議録

1 開 会 平成30年8月7日 午後1時30分

2 閉 会 平成30年8月7日 午後3時5分

3 教育委員会出席者

教育長	美馬 持仁
委 員	松重 和美
委 員	辻 貴博
委 員	藤本 宗子
委 員	小林 信行
委 員	河口 雅子

4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	勢井 研
教 育 次 長	青山 佳裕
教 育 次 長	竹内 敏
教 職 員 課 長	藤川 正樹
教 職 員 副 課 長	溝杭 功祐
学 校 教 育 課 長	藤本 和史
教 育 文 化 課 長	木野内 敦
教 育 政 策 課 長	臼杵 一浩
教 育 政 策 課 副 課 長	木下 淳子

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 報告事項 1 を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第 2 2 号 文化財指定解除の諮問について》

教育長 説明を求める。

教育文化課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

特になし

教育長 議案第 2 2 号を原案どおり決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第 2 2 号を原案どおり決定する旨を告げる。

《報告事項 3 登録有形文化財（建造物）の登録について》

教育長 報告を求める。

教育文化課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

特になし

《報告事項 2 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

小林委員：順位の話が出てくるが、順位だけが大切なのではなくて、質問紙調査の結果についても大切だと考えるが、それらは公表されないのか。

学校教育課長：各結果については、各市町村が中心となって公表等を行うこととなっており、各市町村は学習環境の改善についても加味しながら状況の公表等を行っているところもある。

小林委員：県の結果については、学校教育課は把握しているのか。

学校教育課長：県として把握をしている。

河口委員：中学校はいい結果であり、これは中学校が教科担任制であり、教科部会での研修等の成果だと考える。小学校は一人の教師が全ての教科を指導しており、そういったことも踏まえて、今の課題をしっかりと検証することが大切だと考える。報道の中にも、褒めて伸ばすことが大切であるということがあった。教師は褒めているが、子供はそう感じていないという結果もあり、子供たちが教師に認めてもらい、自己肯定感が育まれる中で学力の向上も図られると思う。教師が子供と関わる中で、一人一人の信頼関係が学力の向上につながると思う。教師がきちっと見た上で評価を正しくすることが大切であり、そのことを踏まえた上で、県教委と鳴門教育大学との連携のもとで学力向上を図っていただきたい。

美馬教育長：長期的な課題、例えば国語のB問題は、当初からの課題であり、今回の算数の課題のように短期的な課題と分けて考える必要があると思う。これまでも取り組んでいた国語力向上タスクフォースなどは継続した上で、結果の検証についても鳴門教育大学と一緒に分析していき、それをどう分類し、何をしていけばいいのかということをしっかり研究していくことが重要だと考える。その場合、教師の負担のことも考える必要がある。今回の新聞にも載っていたが、上位と下位が縮まってきておりそういった点では評価が出来ると思う。来年度からは、A Bが一体化になり、どちらかといえばB問題にシフトしていく可能性があると思うが、そのこ

とは国が求める学力がそうになっていくという面もあり、そういう状況も含めどうすればいいのかを研究、検証することも大切だと考える。

藤本委員：小学校や中学校の質問紙調査は公表されないのか。

美馬教育長：膨大な上に、問われ方もアバウトな資料でもある。

藤本委員：質問紙調査の問題や回答結果は公表されないのか、そういった内容についても議論が必要なのではないか。

美馬教育長：学習面だけではなく、家庭の様子などからも見えてくるものもあり、分析については、多角的に進めて欲しい。

松重委員：順位にこだわるだけではないと思うが、1点でもかなりの差ができているのか。

学校教育課長：全国平均と比べたとき、幅はかなり狭く、±2から3の間に入っている。

河口委員：一覧表で出てきてるが、だんだん幅が縮まってきていると思う。

美馬教育長：この結果の扱い方が大切になる。それらの結果をどのように生かしていくのかが大事であると考え。本県ではステップアップテストを実施し、学力向上のPDCAサイクルの構築を進めてきた。この結果に一喜一憂するのではなく、結果をしっかり分析して次に生かし、底上げをしっかりとしていくために役立てている。

学校教育課長：各学校においても課題を把握し、取り組んで行ってもらいたいと考えている。

松重委員：結果については、各学校でも把握することは出来るのか。各学校へはその結果についてどのように指導をしていくのか。

学校教育課長：各学校においても結果は分かる。そして、学校訪問等での指導に生かしている。

松重委員：そのときに、どういったことが課題になるのか。

学校教育課長：特に、小学校の場合はすべての教科を一人で教えている状況の中で、プログラミング学習や英語の教科化などもあり、いかに時間を上手に配分していくかなどが難しい。

美馬教育長：子供たちの学習環境等も大事である。学習者としての環境、家庭学習などいろいろな要素があり、各学校の先生がそれを一番把握していると思う。ただし、この結果についても、同じ学校であるがメンバーは変わっている、そういった点もしっかり考慮しながら検証する必要があると思う。大きな傾向としてもしっかりと捉え、細かな部分についても正しく検証しながら学力の向上を図っていくことが大切だと考える。

河口委員：小学校の先生方は忙しい中、本当に一生懸命頑張っていると思う。その中で効果的な研修を進めながら、子供たちに力をつけていって欲しい。

そこで、より効果的な研修体制を整え、新学習指導要領に向けて上手く、進めて行って欲しい。

藤本委員：中学校については、いい結果であり、よかったと思う。そして、それは各学校がすばらしい取組を行った成果であり、よかったところの分析をし、他の学校にも、しっかり共有して欲しい。

辻委員：生きていく力をつけることが大切だと考える。そのために自ら知識を得たいと動機付けができることが大切だと思う。そういったことも進めて行って欲しい。

美馬教育長：実際そのことが最も重要なことだと思う。教え方が上手いということも大切だが、子供たちに学びたいという意識を醸成させるために、どのような仕掛けを加えていくか、そういったことも大切だと思う。

松重委員：結果の比較を見ても、３年前と相関関係はないようであり、質の問題ではなく、方法がきいている。

藤本委員：結果の中で、３年前から成績が向上しているということは、それぞれの場面場面で教師が適切に実施した教育の成果であり、本県の教師の努力の結果だと思う。そういった教師の取組についても正しく評価しながら、これからも学力向上を進めて欲しい。

[非公開]

《報告事項１ 平成３１年度徳島県公立学校教員採用候補者選考審査第１次審査について》

《協議事項１ 職員の処分について》（追加）

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後３時５分